

**令和6年度**

**普及指導活動における外部有識者  
との意見交換会 実施報告書**

**岩手県農林水産部農業普及技術課**

## 目 次

|                                  | 頁  |
|----------------------------------|----|
| 第 1 実施内容                         | 1  |
| 第 2 意見・助言                        | 3  |
| ○ 農業普及技術課農業革新支援担当                | 4  |
| ○ 盛岡農業改良普及センター                   | 6  |
| ○ 八幡平農業改良普及センター                  | 7  |
| ○ 中部農業改良普及センター                   | 8  |
| ○ 奥州農業改良普及センター                   | 9  |
| ○ 一関農業改良普及センター                   | 10 |
| ○ 大船渡農業改良普及センター                  | 11 |
| ○ 宮古農業改良普及センター                   | 12 |
| ○ 久慈農業改良普及センター                   | 13 |
| ○ 二戸農業改良普及センター                   | 14 |
| 添付 普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領 | 15 |

## 第1 実施内容（令和6年度岩手県普及指導活動に係る外部有識者との意見交換会実施要領）

### 1 目的

「令和6年度岩手県普及指導活動に係る外部有識者との意見交換会実施要綱」（以下「要綱」という。）に基づき、この実施要領をもって、令和6年度の外部有識者との意見交換に係る運営方法等を定める。

### 2 実施主体

農業普及技術課

### 3 外部有識者

地域の先進的な農業者（農業農村指導士等）や農業関係団体、消費者、学識経験者、報道機関、民間企業等から、各分野に偏りが出ないように5名に依頼した。

| 区分      | 所属等   | 氏名    |
|---------|---|-------|
| 先進的な農業者 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)                  | 照井 勝也 |
| 農業関係団体  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター<br>センター長                     | 山崎 勉  |
| 学識経験者   | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構<br>東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域<br>生産力増強グループ グループ長 | 宮路 広武 |
| 報道機関    | 岩手日報社 論説委員長   | 四戸 聡  |
| 民間企業等   | 一関まちづくり株式会社<br>代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                   | 梁川 真一 |

### 4 日程及び会場

#### (1) 日程

令和7年2月6日（木）10:00～16:20

#### (2) 会場

岩手県水産会館 大会議室（ウェブ会議併用）

#### (3) 参集方法

外部有識者、発表者、各農業改良普及センター及び農業普及技術課は水産会館に参集し、実施。各農業改良普及センターはZoomによる接続配信も併せて実施。

### 5 対象課題

#### (1) 県重点プロジェクト

| 課題                        | 公所           |
|---------------------------|--------------|
| 地域の核となる畜産経営体の生産性向上と収益性の確保 | 農業革新<br>支援担当 |

#### (2) 普及センターの主要な地域課題普及指導計画

| 課題                 | 公所  |
|--------------------|-----|
| 安定的な畜産経営体の育成       | 盛岡  |
| 畜産の収益性向上           | 八幡平 |
| 畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進 | 中部  |
| 飼料増産と畜産外部支援組織の機能強化 | 奥州  |

| 課題                | 公所  |
|-------------------|-----|
| 水田農業の生産性向上        | 一関  |
| 地域特性を活かした果樹の振興    | 大船渡 |
| 畜産の産地力向上と担い手育成    | 宮古  |
| 新規就農者の確保・育成       | 久慈  |
| 酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上 | 二戸  |

## 6 意見交換の視点

| 項目                  | 意見交換の視点  |
|---------------------|--|
| 課題背景<br>選定理由        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状把握がしっかり行われているか。</li> <li>・支援対象をしっかりと捉えているか。</li> <li>・課題選定は適切か。その場限りの対処法に偏っていないか。</li> <li>・根拠を踏まえて課題設定しているか。</li> </ul>   |
| 到達目標                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な目標となっているか。</li> <li>・過小でもなく、過大でもない、根拠ある適正な目標となっているか。</li> <li>・関係機関等との共有が図られているか。</li> </ul>   |
| 活動体制<br>活動内容        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動方法と活動時期は適切か。</li> <li>・所内での役割分担と連携体制は明確か。</li> <li>・県重点プロジェクト計画（地域重点課題普及指導計画）との連携が図られているか。</li> <li>・試験研究機関等の関係機関と連携が図られているか。</li> <li>・支援対象等とのコミュニケーションが図られているか。</li> </ul> |
| 活動実績と成果<br>地域や対象の変化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実績と成果が見出されているか。</li> <li>・実績と成果につながった要因を分析しているか。</li> <li>・地域や対象の変化をしっかりと捉えているか。</li> </ul>  |
| 残された課題<br>今後の対応方向   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・残された課題をしっかりと捉えているか。</li> <li>・今後の対応策をしっかりと設定しているか。</li> </ul>  |
| 参考意見（プレゼンテーション）     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した資料は見やすく、発表は明瞭で分かりやすいか。</li> </ul>  |

## 第2 意見・助言

### 意見・助言内容

## 1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）                     | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|-------------------------------|-------|---|-------------|
|                                       |                               | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 地域の核となる畜産経営体の生産性向上と収益性の確保 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)            | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |                               | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                  | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |                               | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |                               | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |                               | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                | 民間企業等       |

## 2 課題別の意見

| 対象課題                          | 意見・助言  |
|-------------------------------|--|
| (1) 地域の核となる畜産経営体の生産性向上と収益性の確保 | <p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題背景、選定理由は的を得ており評価できる。</li> <li>小課題(1)担い手及び規模拡大志向経営体の収益性向上の取組について、費用対効果の検証が必要。</li> <li>小課題(2)外部支援組織への総合的な支援による組織の経営安定の取組について、成果の分析を適切に行い、今後の繋げていただきたい。</li> </ul> <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きなカテゴリーとして課題設定は的確である</li> <li>サーモグラフィーによる暑熱対策はなぜ必要なのか等、未経験者でも分かるような説明が必要。</li> <li>小課題(2)外部支援組織への総合的な支援による組織の経営安定の取組について省力化なのか、効率化なのか内容の整理及び検証が必要。</li> </ul> <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器等を活用して取得した具体的データに基づき、改善策の検討や実施が行われている点は評価できる。具体的データを提示し、必要な改善点や改善方法を提示していく手法は、生産者にとっても理解しやすいものと考えられる。</li> <li>繁殖雌牛の収益性評価目標については、効果の出現まで一定の時間を要すると考えられるので、飼養管理の精度向上など、必要な改善自体が実施されているかという視点でのチェックも併せて行うと分かりやすい。</li> <li>改善に向けた各種データの具体的な集計・分析方法等については、各普及センターと連携して効果的、効率的な方法の共有も進めていただきたい。</li> </ul> <p>【四戸聡】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小課題(1)担い手及び規模拡大志向経営体の収益性向上の取組について、繁殖雌牛 1 頭当たり収益性評価の実績の目標達成は「長い時間を要する」との説明にあいまいさを感じた。目標設定の妥当性について検証し、再設定する必要はないか検討いただきたい。</li> </ul> |

| 対象課題 | 意見・助言  |
|------|--|
|      | <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データの可視化により課題への取り組みが容易になり、改善提案について理解度が上がった。</li> <li>全て（各地区）の取組に対して生産資材の高騰等により、多面的な支援が必要。生産性だけでなく、少しでも収入に関わるオフェンス部分も一緒に取り組むと、農家も安心してチャレンジできると考える。</li> </ul> |

### 3 普及指導活動の体制等への意見

| 普及指導活動の体制等             | 意見・助言  |
|------------------------|--|
| <p>(1) 組織体制</p>        | <p>【宮路広武】</p> <p>今年度の幾つかの報告でも、農業革新支援担当と普及センターの連携が示されており、引き続き的確な連携・サポートが行われることを期待したい。また、共通する課題に取り組んでいる普及センター間での連携もより有効な指導に役立つのではと感じた。</p> <p>【梁川真一】</p> <p>各地域の取り組み含め、PDCAに沿った活動は、普及員のみならず、農家にとっても大切な実践方法になるので、継続して実施していただきたい。</p>                                      |
| <p>(2) 人員の動向</p>       |  |
| <p>(3) 普及員の資質向上の取組</p> | <p>【梁川真一】</p> <p>テーマが同じようになると、決まって同じ取組や表現になることが多い。既に取組をしているかと思うが、定期的に各地域の進捗状況を共有する等、それぞれが良い意味で競争できるような活動なることを期待したい。</p>  |
| <p>(4) その他</p>         | <p>【宮路広武】</p> <p>各報告では、地域ごとの課題を念頭に、改善すべき課題の抽出、指導の実施、指導結果の評価、次年度に必要な活動が明確に示されており、PDCAの視点でもわかりやすい報告であった。また、具体的データ等に基づき、必要な指導内容が示され、生産者にとってもわかりやすい指導が実施されているものと感じた。</p> <p>【梁川真一】</p> <p>畜産が地域毎に課題の抽出や取組が違うというのは、県全体で見れば、「現状把握」から出る課題であり、歯止め、標準化ができていない活動なのではないかと感じた。</p> |

1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）        | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|------------------|-------|---|-------------|
|                                       |                  | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 安定的な畜産経営体の育成 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)                | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |                  | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                      | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |                  | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究<br>センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |                  | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |                  | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                    | 民間企業等       |

2 課題別の意見

| 対象課題             | 意見・助言   |
|------------------|---|
| (1) 安定的な畜産経営体の育成 | <p><b>【照井勝也】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題背景、選定理由は的確である。</li> <li>畜産分野では、酪農が、最も経営が厳しいのではないかと考えている。</li> <li>改善指導は評価できる。今後も継続していただきたい。</li> </ul> <p><b>【山崎勉】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な活動をしており、一定の成果を上げている。</li> </ul> <p><b>【宮路広武】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的なデータや実態に基づき改善点の抽出や改善への取り組みが行われており、生産者にとってもわかりやすい指導が実施されている他、目標未達の指標についても未達要因の検討や必要な改善策が認識されている点は評価できる。</li> <li>発表資料からも生産者にもわかりやすく必要な改善点の提示が行われていると考えるが、提案事項の未実施農家への対応に際しては、未実施要因等の把握も含め継続した指導を期待する。</li> </ul> <p><b>【四戸聡】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明がコンパクトにまとめられ、パワーポイントも分かりやすかった。酪農、和牛、自給飼料いずれも目標を上回る実績が上がっており、普及指導活動の意義を実感した。</li> <li>全体に取り組みの成果が強調されており、課題の分析の説明が不足していると感じた。</li> <li>支援対象以外の経営体に対する成果の横展開について「成果を見せていく」等の説明があったが、やや説得力に欠ける印象を持った。</li> </ul> <p><b>【梁川真一】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産地の頭数を確保する為に、担い手を育成している取組において、活動しながら、農家とコミュニケーションを大切に図っていると感じた。</li> <li>苦勞した点として、「個別生産者で目的達成できない人がいる。提案した内容を実践していない」ということだが、どうしたら実践、改善してもらえるか、引き続き、信頼関係の構築や巻き込みを期待したい。</li> </ul> |

1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）    | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|--------------|-------|---|-------------|
|                                       |              | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 畜産の収益性向上 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)            | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |              | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                  | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |              | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |              | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |              | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                | 民間企業等       |

2 課題別の意見

| 対象課題         | 意見・助言   |
|--------------|---|
| (1) 畜産の収益性向上 | <p><b>【照井勝也】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題背景、選定理由は的確である。</li> <li>実際に収益性は上がったのか、分娩間隔をさらに短縮するにはどうすればよいか検証が必要。</li> </ul> <p><b>【山崎勉】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チーム編成にてしっかり課題に対応している。</li> <li>立派な課題対応をしているので、指導体制をもっと記載していただきたい。</li> </ul> <p><b>【宮路広武】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酪農経営への支援については、改善提案書による改善計画の提案、実践、効果の評価、分析等が具体的に実施され、個体乳量目標も達成しており評価できる。肉用牛繁殖経営への支援については、分娩間隔目標は下回っているものの、改善提案書等の活用により短縮傾向にある点は評価できる。</li> <li>八幡平市繁殖育成センターは、酪農経営、繁殖経営、双方の支援組織としてその活動が期待されるかと思う。預託牛目標については、まだ目標を下回っているため、育成センターだよりに掲載のアンケート調査結果なども踏まえ、預託者ニーズへの対応や必要な改善が実施され、有効な支援組織として機能することを期待する。</li> </ul> <p><b>【四戸聡】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市繁殖センターの課題についてやや抽象的なものの、厳しく自己分析できている。現状で目標を大きく下回る預託頭数の増加に向け、指導の実効性向上を期待したい。</li> </ul> <p><b>【梁川真一】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>良い牛、高い牛を育て、多少なりとも高く売るブランド化につながる取組を実践していると感じた。引き続き、収益向上のために重要な技術や経営手法について、農家と密にコミュニケーションを図り、結果を各地域へ共有していただきたい。</li> </ul> |

1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）              | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|------------------------|-------|---|-------------|
|                                       |                        | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)            | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |                        | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                  | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |                        | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |                        | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |                        | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                | 民間企業等       |

2 課題別の意見

| 対象課題                   | 意見・助言   |
|------------------------|---|
| (1) 畜産経営の生産性向上と規模拡大の促進 | <p><b>【照井勝也】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題背景、選定理由は的確である。</li> <li>新草種は寒地型牧草に比べて収量が多いことが評価できる。</li> </ul> <p><b>【山崎勉】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表及び質問対応が分かりやすい。</li> <li>事前資料と発表資料では課題への焦点の当て方が異なっている。良い取組なので、整合性を分かりやすくつけた方が良い</li> </ul> <p><b>【宮路広武】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年の高温傾向などを背景に、暖地型牧草導入の検討など、新たな取り組みも認められ、飼料増産等への取り組み目標が達成されている点は評価できる。</li> <li>子牛市場上場目標については、下回っているので、引き続き、要因の把握と指導を行い、目標が達成されることを期待したい。</li> <li>飼料増産等への取り組み経営体増加の背景として、それだけ課題を抱える生産者が多いとの状況も把握しているので、継続した支援を期待したい。</li> </ul> <p><b>【四戸聡】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポイントを絞った発表で、寒冷型牧草と新草種の性質の違いについてよく理解できた。水田地帯における湿害対策の課題が明確になっており、今後の克服と安定生産に期待したい。</li> </ul> <p><b>【梁川真一】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「畜産経営の大規模化・効率化の支援」、「ICT やロボット技術を活用した省力化推進」、「繁殖技術の向上と家畜の健康管理」それぞれのポイント毎への取り組みが良かった。</li> </ul> |

## 1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）              | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|------------------------|-------|---|-------------|
|                                       |                        | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 飼料増産と畜産外部支援組織の機能強化 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)                | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |                        | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                      | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |                        | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究<br>センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |                        | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |                        | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                    | 民間企業等       |

## 2 課題別の意見

| 対象課題                   | 意見・助言   |
|------------------------|---|
| (1) 飼料増産と畜産外部支援組織の機能強化 | <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はきはきとした受け答えで良い。</li> <li>事前資料と説明資料で到達目標数が異なっている点、課題の抽出等について、発表の前段で説明が欲しかった。</li> </ul> <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の畜産振興に重要な外部支援組織に対し、施肥や雑草防除、ほ場別収量など具体的なデータに基づき改善指導が実施されている他、UAV や作業管理システムなどを用いたデータ取得など、新たな取り組みが行われている点は評価できる。また、飼料増産等への取組数も目標を達成している。</li> <li>UAV や作業管理システムデータの具体的な分析や活用については、引き続き、農業革新支援担当や他センターと連携、共有を行い、より効果的な活用方法が見出されることを期待したい。</li> </ul> <p>【四戸聡】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模圃場におけるドローンやICTの生産性向上への有効性を実感した。</li> </ul> <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「到達目標：自給飼料の安定確保、安定した経営の確立」のために、<br/>自給飼料生産技術の向上、作業効率化支援、組織運営体制の改善支援を農家と共に実践していること<br/>レスポンスと分かりやすさを重視してLINEを活用した調査結果の情報共有をしていること<br/>ドローンを活用した生育状況の確認・共有により、雑草防除が必要な場所、面積を特定し、効率的な防除作業、除草剤の使用量低減が実現したこと<br/>レボサクを農家に分かりやすく説明していたこと<br/>が良かったと感じた。</li> </ul> |

## 1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）      | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|----------------|-------|---|-------------|
|                                       |                | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 水田農業の生産性向上 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)                | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |                | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                      | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |                | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究<br>センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |                | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |                | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                    | 民間企業等       |

## 2 課題別の意見

| 対象課題           | 意見・助言   |
|----------------|---|
| (1) 水田農業の生産性向上 | <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乾田直播栽培の技術は大規模経営体にはニーズがあり、一気に拡大しなくても、地域にノウハウを継続させていただきたい。</li> </ul> <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一関地域で広がる水稲乾田直播栽培について、栽培技術の平準化等を目的に定点観測圃の設置やアンケート調査、指導会の実施により、具体的な生育状況や成功点、課題等の把握が行われている他、他機関とも連携して栽培技術の確立に向けた実践的な指導が実施されている点は評価できる。</li> <li>収量目標の達成に向けては、生産者による作業体系のアレンジなど、減収要因等の把握も行われているため、引き続き、必要な改善と技術確立に取り組み、目標が達成されることを期待したい。</li> </ul> <p>【四戸聡】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乾田直播栽培技術のメリット、デメリットが明確に説明されていた。生産者が作業を自らアレンジするなど率直な課題も示され、興味深く聞いた。1 生産者当たりの経営規模が大きくなる今後は必須の栽培方法になると思われ、さらなる技術の向上に期待したい。</li> </ul> <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「水稲の収量・品質向上の支援」、「低コスト・高効率な栽培技術の導入促進」及び「環境に配慮した持続可能な水田農業の推進」について、継続した取組を期待したい。</li> <li>残された課題の「アレンジした結果、収量低下となった事例」について、なぜそうなったのかという部分を大切に解析していただきたい。</li> </ul> |

## 1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）          | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|--------------------|-------|---|-------------|
|                                       |                    | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 地域特性を活かした果樹の振興 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)            | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |                    | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                  | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |                    | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |                    | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |                    | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                | 民間企業等       |

## 2 課題別の意見

| 対象課題               | 意見・助言   |
|--------------------|---|
| (1) 地域特性を活かした果樹の振興 | <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取組は素晴らしいが、目標に対する年別の結果が分かりづらかった。</li> </ul> <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの指導の中で甲子柿の単収減の要因に落葉病の発生があることを明らかにするとともに、生産者への講習会や実証ほの設置をとおして指導、啓蒙を図り、病害虫防除回数の増加等により、収量向上を実現した継続的な取組は評価できる。</li> <li>落葉病対策への継続指導の他、新たに発生した汚損果については、引き続き、発生原因の解明と対策の検討を行い、生産量目標を達成することを期待したい。</li> </ul> <p>【四戸聡】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>甲子柿の現状と課題について理解を深めることができた。G I 登録で品質向上し高値で取引されるようになったことで逆に地元民が食べられない皮肉な状況になっているという話はとても興味深かった。</li> <li>説明の時間配分の関係で、一部説明が省力されたのは残念だった。</li> </ul> <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域ごとの特産果樹の振興とブランド化の推進として、このような地域で残してほしい、強みにしてほしいと思うテーマに取り組んでいただいたことが一番の評価ポイント。「果樹ブランド化の成功事例」等も参考に、品質基準等を決めていき、岩手の価値として発信できる取組となることを期待したい。</li> </ul> |

## 1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）          | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|--------------------|-------|---|-------------|
|                                       |                    | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 畜産の産地力向上と担い手育成 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)                | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |                    | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                      | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |                    | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究<br>センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |                    | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |                    | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                    | 民間企業等       |

## 2 課題別の意見

| 対象課題               | 意見・助言   |
|--------------------|---|
| (1) 畜産の産地力向上と担い手育成 | <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明が明朗で分かりやすかった。</li> </ul> <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細分化した畜産指導会やミニ指導会の実施、和牛瓦版の作成など生産者の状況を考慮した指導の実施が行われている他、定期巡回においては、個々のデータに基づく具体的な指導が実施されている点は評価できる。</li> <li>細分化した畜産指導会やミニ指導会の開催は、生産者の評判も良く、参加もしやすいようなので、引き続き、生産者の参加しやすい方式での開催が行われ、目標達成に繋がることを期待したい。</li> </ul> <p>【四戸聡】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和牛瓦版の発行は目新しい取り組みではないが、地域の飼養状況を踏まえた情報にカスタマイズして発信することで成果を挙げている好例と思う。</li> <li>説明のスピードが早く、授精・分娩など専門的な話もあって、理解が追いつかないところが複数あったのが残念だった。</li> </ul> <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戸数、頭数ともに減少、子牛価格が低調という現状把握から、更に解析し「高齢化で牛の世話ができなくなってきた、資材高騰で頭数を減らしている」ということが分かった。このポイントは、今後農産物を生産する農家にも関わる課題であり、研修制度（指導会）の充実度と参加者の意見や、和牛瓦版のような取り組みは形を変えて他の取り組みでも共有して、それぞれの課題解決に活用していただきたい。</li> </ul> |

## 1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）       | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|-----------------|-------|---|-------------|
|                                       |                 | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 新規就農者の確保・育成 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)                | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |                 | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                      | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |                 | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究<br>センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |                 | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |                 | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                    | 民間企業等       |

## 2 課題別の意見

| 対象課題            | 意見・助言  |
|-----------------|--|
| (1) 新規就農者の確保・育成 | <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この地域でも新規就農というテーマがあるが、ここまで順調な事例は初めてである。他の地域にもこの成功事例を広げていただきたい。</li> </ul> <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就農指向者の確保に向け、様々な就農相談会の開催や出展の他、オンライン農業現場視察の実施など積極的な取り組みにより目標を上回る新規就農者が確保できている他、見学ツアーや指導会、巡回指導などの実施により自営新規就農者の 5 年後定着率も目標を上回っている点は評価できる。</li> <li>・ 新規野菜品目での新規就農者の受け入れなど、地域状況の変化も考慮したマッチングにより、引き続き、安定して新規就農者が確保されることを期待したい。</li> </ul> <p>【四戸聡】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規就農者の定着、技術向上にとって農業農村指導士ら先輩農家の役割の重要性がよく分かった。</li> <li>・ 新規就農者の獲得は地域の総合的な魅力の訴求が欠かせないと思われる。農業関係者以外と連携した活動の紹介があれば良かった。</li> </ul> <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規就農者の定着率を高めるための施策と、就農後のフォローアップを大切に育成していただきたい。県外から移住し、当地で活動するという事は、正直、なかなか選択として難しいと思うが、取組を継続しているからこそ、県外から興味をもつ方がいる。これは数字では、まだ小さいが、大きな成果であり継続した取組を期待したい。</li> </ul> |

## 1 意見交換の実施状況

| 実施日時                                  | 対象課題（中課題）             | 外部有識者 |   |             |
|---------------------------------------|-----------------------|-------|---|-------------|
|                                       |                       | 氏名    | 所属及び職名  | 区分          |
| 令和 7 年 2 月 6 日<br>10 時 00 分～16 時 20 分 | (1) 酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上 | 照井 勝也 | 公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長<br>(岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)            | 先進的な<br>農業者 |
| 実施場所                                  |                       | 山崎 勉  | 岩手県農業協同組合中央会<br>JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長                  | 農業関係団体      |
| 岩手県水産会館大会議室<br>ウェブ会議                  |                       | 宮路 広武 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長 | 学識経験者       |
|                                       |                       | 四戸 聡  | 岩手日報社 論説委員長   | 報道機関        |
|                                       |                       | 梁川 真一 | 一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)                                | 民間企業等       |

## 2 課題別の意見

| 対象課題                  | 意見・助言  |
|-----------------------|--|
| (1) 酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上 | <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>黒毛子牛の目標数値は独特で面白いが、効果のロジックをしっかりと整理すべきと感じた。</li> </ul> <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部支援組織の指導に際し、作業実績データの活用やドローンによる生育や雑草状況確認のなど、具体的なデータに基づく改善指導が実施されている他、飼料用とうもろこしの作付面積目標を上回っている点は評価できる。</li> <li>外部支援組織への指導については、データ解析手法やツールの共有・共通化など、引き続き、農業革新支援担当や他センターとの連携、情報交換を行い、効果的なデータ活用が行われることを期待したい。</li> </ul> <p>【四戸聡】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>黒毛和種繁殖農家の集合研修が若手就農者の意欲を高めているとの発言があった。交流の場は切磋琢磨による地域の飼養技術の底上げに資する。同様の機会を今後も積極的に仕掛け、交流の輪を太く、広くしていくことが有効と思う。</li> </ul> <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酪農・和牛繁殖の生産性向上を目的とした技術指導、経営の安定化と高収益化を目指す取組ということで実践し、担い手が不足している現状の中、『規模拡大の意向をもった若手後継者』がいるということは、何かヒントが隠れていると思う。継続して取り組み、県内各地域に共有していただきたい。</li> </ul> |

## 普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領

### 第1 趣 旨

県では、協同農業普及事業の実施に関する方針（以下「実施方針」という。）を定め、農業者が将来展望をもって農業経営に取り組むことができるよう、農業者の所得向上と地域課題の迅速な解決を目指し、効果的な普及指導活動を展開することとしている。

この要領は、普及指導活動を効果的かつ効率的に実施するため、普及指導計画の策定、これに基づいたスペシャリスト機能・コーディネート機能・総合的な企画運営能力を発揮した普及指導活動の実施と記録、幅広い視点からの客観的な評価の実施及び評価に基づく活動の見直しを一連のサイクルとして行うことについて、必要な事項を定めるものである。

### 第2 普及指導計画の策定

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、「いわて県民計画」の目標実現に向け、計画的かつ継続的な普及指導活動を行うため、4カ年を計画期間とする普及指導計画を策定する。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画の策定に資するため、実施方針に掲げる普及指導活動の課題や「いわて県民計画」の各プランに則し、計画活動により解決する基本的な課題（以下「基本課題」という。）を設定する。
- 3 基本課題のうち、重要かつ広域的な課題を県重点課題として農業普及技術課が選定し、その課題に対応した普及指導計画を策定する。  
また、基本課題のうち、地域において重要な課題を地域重点課題として農業改良普及センターが選定し、その課題に対応した普及指導計画を策定する。
- 4 農業普及技術課が策定する普及指導計画は「県重点プロジェクト計画」、農業改良普及センターが策定する普及指導計画は「地域重点課題普及指導計画」と呼称する。
- 5 普及指導計画は、普及指導方針及び課題別計画の構成とし、地域農業・農村の現状及び農政推進上の課題、目指す姿や目標を明らかにして策定する。

なお、普及指導計画等の内容や課題の計画期間は、課題解決の進捗状況等、必要に応じて変更することができるものとする。

- (1) 県重点プロジェクト計画は様式第1号により作成し、地域重点課題普及指導計画は様式第2号により作成する。
- (2) 普及指導方針は、様式第1-1号、様式第2-1号により作成し、様式に掲げる事項を定める。
- (3) 課題別計画は、様式第1-2号、様式第2-2号により作成し、様式に掲げる事項を定める。また、課題別計画ごとに工程表を作成する。

6 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、県重点課題又は地域重点課題以外の基本課題について、活動計画（以下「基本課題に係る活動計画」という。）を策定する。

なお、基本課題に係る活動計画は、参考様式によるほか、達成目標や達成手段・方法を明記した任意様式により策定するものとする。

7 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、高度化かつ多様化する農業者等のニーズに対応し、より一層効果的かつ効率的な普及指導活動の展開を図るため、普及指導計画の策定にあたって、次の内容に留意する。

(1) 消費者や農業者のニーズの視点をもって活動するため、農業普及員が巡回指導や各種の調査等を通じて収集整理した情報をもとに管内の農業及び農村の現状を踏まえ、重点的に取り組むべき課題と支援対象者を絞り込む。

(2) 課題解決に向けて取り組む項目や到達目標、及び支援対象者への具体的な支援内容や目標等について、あらかじめ支援対象者と十分に協議し共有する。

(3) 農業農村指導士、普及事業パートナー、市町村や農協等の関係機関・団体、民間、県機関等と十分な協議・検討を行って課題と目標を共有し、それぞれの役割分担と連携の進め方（地域協働の姿）を明確にする。

(4) 県重点プロジェクト計画が広域的な課題解決に向け効果的な活動となるよう、農業普及技術課と農業改良普及センターの役割分担を明確にする。

8 農業普及技術課は、当該年度の県重点プロジェクト計画及び基本課題に係る活動計画を4月上旬までに農業改良普及センター、県庁農政担当課及び農業研究センターへ通知する。

なお、県重点プロジェクト計画（課題別計画：様式第1-2号）を変更しようとする場合は、事前に農業改良普及センター等から意見を聞くものとする。

9 農業改良普及センターは、当該年度の地域重点課題普及指導計画及び基本課題に係る活動計画を4月中旬までに農業普及技術課へ報告する。なお、地域重点課題普及指導計画（課題別計画：様式第2-2号）を変更しようとする場合は、事前に農業普及技術課の助言を受ける。

### 第3 普及指導活動の実施等

1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画及び基本課題に係る活動計画に基づき、効果的かつ効率的な普及指導活動を実施する。なお、県重点プロジェクト計画については、明確化された役割分担に基づき農業普及技術課と農業改良普及センターが一体となって活動する。

2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により普及指導計画の進捗状況を把握しながら、当該年度の普及指導活動を計画的かつ効果的に実施するよう努める。また、基本課題に係る活動計画についても、

計画的かつ効果的に実施するよう参考様式等により進捗管理する。

- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、支援対象者等に対する普及指導活動の内容を記録・蓄積することにより活動経過を共有し、継続的な普及指導活動を実施する。
- 4 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の実施状況や成果について、毎年度、活動実績書等に取りまとめ、県のホームページ等を通じて積極的に外部に公表するとともに、地域の農業者等に対して広く周知する。

#### 第4 普及指導活動の評価

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の結果を的確に把握して、その後の効果的な活動に反映させる。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画に定めた課題の進捗状況及び活動記録を通じて明らかになった対象の変化等を整理・分析し、毎年度、課題別に内部評価を実施する。
  - (1) 課題別評価は、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により、計画策定過程、活動実施過程、活動の結果を総合的に評価し、毎年度末までに取りまとめる。

また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第1-4号、様式第2-4号）により、計画期間における実績を総括して評価し、当該年度末までに取りまとめる。
  - (2) 農業改良普及センターは、内部評価結果として課題別単年度実績（様式第2-3号）を、毎年度末までに農業普及技術課へ報告する。また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第2-4号）を当該年度末までに農業普及技術課へ報告する。
- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、幅広い視点から客観的な検討を行い、一層効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するため、普及指導計画について、毎年度、外部有識者との意見交換を実施するものとする。
  - (1) 農業普及技術課は、意見交換を統轄し、外部有識者との意見交換会（以下「意見交換会」という。）の開催と、必要な予算措置を講ずる。
  - (2) 外部有識者は、地域の先進的な農業者（農業農村指導士等）や農業関係団体、消費者、学識経験者、報道機関、民間企業等から毎年度、一部に偏りが出ないよう5名以内とする。
  - (3) 意見交換会は、内部評価終了後の概ね2月中下旬に開催する。
  - (4) 意見交換会では、毎年度数課題を選定し、計画、活動方法及び成果、活動体制について意見、助言等を行う。
  - (5) 農業普及技術課は、外部有識者からの意見・助言等を当該年度末までに外部有識者との意見交換会実施報告書（様式第1-5号、様式第2-5号）に取りまとめ、その概要を県のホームページ等を通じて外部へ公表する。

- 4 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、内部評価及び外部有識者との意見交換の過程を経て取りまとめた活動の成果と課題及び意見交換会の意見・助言等を踏まえて、課題解決の方策等について十分に検討を行い、次年度以降の普及指導計画に可能な限り反映させ、もって普及指導活動及びその体制の改善を行う。

## 第5 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

### 附則

この要領は、平成18年10月6日から施行する。

### 附則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

### 附則

この要領は、平成23年5月2日から施行する。

### 附則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

### 附則

この要領は、平成27年12月3日から施行する。

### 附則

この要領は、平成28年10月31日から施行する。

### 附則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

### 附則

この要領は、令和3年1月27日から施行する。

### 附則

この要領は、令和4年9月29日から施行する。

### 附則

この要領は、令和6年2月6日から施行する。